



MEIDAI MASS-COMMUNICATION CLUB

発行 明治大学マスコミクラブ
〒101-8301東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学広報課内 MMC 事務局

電話 03-3296-4082

FAX 03-3296-4087

e-mail : mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp

URL : www.meiji-mmc.com

発行人 堀口博史

編集 校篠 真、山岸順一、隈元浩彦

2023年——新年度のごあいさつ 日常を徐々に取り戻した 2022年度MMCの活動。

会長 堀口博史（82年文学部卒／ライトハウス）

コロナ禍は第8波に入り、相変わらず気の抜けない日々が続きますが、会員の皆さままいかがお過ごしでしょうか。こうしたなかMMCでは、皆さまといたかにして交流を保ち、会を継続・発展させていくか、毎月の理事会を通し模索してまいりました。

そして昨春秋、まずは3年ぶりとなるビアパーティとMMCサロンの開催にこぎつけ、対面で皆さまと創り上げるイベントを開催することができました。

また、MMCの重要活動の一つであり、大学との大きな接点でもある就活支援では、対面とリモート併用による講座を開催し、今期も多くの有能な人材をマスコミ界に送り込んでいます。

身動きの取れない日々から少しずつ知恵を絞り、MMCの活動を維持・継続する方策を模索してきた1年となりましたが、この経験を活かし、次期執行部にバトンタッチして伝統あるMMCを継続・発展させていく所存です。結びになりますが、本年度も会



▲ビアパーティで挨拶する 堀口会長

ようこそ、MMCへ！

2019年のコロナ禍以降、MMCに入会された方々（敬称略）。

【2020年度】

▼伊藤 操（71文／ライター、ライフ・コーディネーター）▼佐藤 さくら（93文／フリーライター）

▼高野雅裕（84政経／協立コミュニケーション・シヨンス）

【2021年度】

▼西巻政信（87政経／トムソン・ロイターOB）▼後藤 純（10理工／集英社）

【2022年度】

▼中村大吉（22文／光村印刷）▼金山宥成（05文／金山商会）▼本城直希（07経営／ハマナス）

3年ぶりにビアパーティ、MMCサロン開催！

旧交温め大盛況、若手も多数参加

「MMC秋のビアパーティ2022」が10月15日（土）18時、神田神保町 Dining Cafe ESPERIAで開催された。

司会は仲里奈さん（97文／軽井沢経済新聞）が務め、堀口博史会長（82文／ライトハウス）の挨拶、校篠真副会長（84政経／風讀社）の乾杯の発声で開宴。3年ぶりとなるパーティは、友好団体の建設不動産駿台会から木目田幸男副会長（94政経）と富沢康弘さん（95経営）、全国紫明クラブから眞柴眞明会長代行（72政経）と四之宮浩副会長（83商）をお招きし、総勢約50人が参加して旧交を温めた。澤田慎介副会長（83政経／ソニー生命保険）が締めを行い、楽



▲MMCサロンでは多くの若手が集った

しい秋のひと時が幕を閉じた。

「MMCサロン」は10月30日（水）18時、神田神保町の華龍飯店で開催され、約30人が参加。会員が会員候補を誘ったり、昨年の就活講座受講生が参加して、若い人たちの熱気あふれる集いとなった。

MMCトピックス

22年5月24日（火）20時、ズーム配信による「桂竹千代オンライン高座の夕べ」が開催された。21年度文化庁芸術祭大衆芸能部門新人賞を受賞した桂竹千代さん（11年文学部大学院修士課程修了）が、会員限定で無料オンライン高座を実施したもの。落語6分・交流タイム30分と盛り沢山の内容で、今後はイベントや勉強会を開催することが期待される。

またMMCではYouTubeチャンネル＝「MMC Youtube 明治大学マスコミクラブ」を開設し、試行を兼ねて、昨秋開催された「神田古本まつり」の動画をアップした。今年度は会員からの投稿を募集する予定だ。



▲神田古本まつり

MMC会員の近況報告

「いま、こんなことに取り組んでいます！」

マスコミ業界のほか、各方面で活躍中のMMC会員。会社の事業の主力として奮闘したり、母校の体育会で学生支援に当たったりするなど多士済々の活躍。
 『熱い仲間、からの素敵なメッセージをお届けします。(順不同)』



静岡の『とびつきりブランド』を守るべく奮闘中。

▼橋本ありす (07年政経学部卒／静岡朝日テレビ 総合編成局アナウンス部長)



静岡朝日テレビでアナウンサーとして働いて15年。東京出身ですが、すっかり「静岡人」です。

現在は情報番組『とびつきり! しずおか』のMCを担当しています。平日は夕方、土曜日は朝から4時間の生放送で、22年続

く『とびつきりブランド』を守るべく、緊張感をもって本番に臨んでいます。じつは昨年アナウンス部長となり、部下を指導する立場になりました。覚えることが多く、日々奮闘しています。

す。自分のことはいつも通り、でも部員にはしっかりと時間を使う——そういう年齢になってきたのだなと感じています。

静岡にお越しの際はぜひ声をお掛けください。皆さんと対面で語り合える日を楽しみにしています。

女性社員の発案で、セルフ写真館を起業しました。

▼川浦敦也 (16年経営学部卒／株ボム代表取締役)



皆さん、「セルフ写真館」をご存知でしょうか。セルフ写真館はその名の通り、カメラマンがいらない写真館です。

撮影機材があらかじめスタジオにセットされており、お客様自身でシャッターを押して、写真撮影ができます。

明大卒業後、広告会社や出版社で修

業を積んで、渋谷でセルフ写真館「セルフフォトスタジオ渋谷」を21年8月に開業しました。これまで約5,000組のお客様にご来店いただいています。

じつはこの写真館、新卒2年目の女性社員の発案でした。彼女が、SNSでセルフ写真館がブームになりつつあることを知って、事業責任者として提案し、実現してくれたのです。

MMCの皆さんも機会がありましたら、ぜひセルフ写真館(彼女の力作です)へご家族やご友人とお越しただけたら嬉しいです。

広告領域以外にも仕事を広げ、チャレンジの毎日です。

▼志賀瑛七 (18年文学部卒／日本経済社 第5営業局)



学生時代はMMCの就活講座を受講し、いまは日本経済新聞社グループの広告会社で勤務しております。

入社以来、営業として教育機関(大学・予備校)、IT、医療など幅広いクライアントを担当してきました。

最近ではSDGs・ESGにおい

て企業がどう取り組むべきかというアドバイザリーを協力会社と一緒にになって支援するなど、広告領域以外にも仕事を広げ、チャレンジの毎日です。入社時には考えてもいなかった業務に驚きつつも、新鮮な気持ちでいられることに感謝、感謝で感謝しています。

「広告出したいなあ」。そんな悩みがございましたら、日経新聞以外にも含めて、ご連絡お待ちしております！

皆様のご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

『たった一言で印象が劇的に変わる!話し方ドリル』を出版。

▼神原智己 (91年商学部卒／元札幌テレビ放送アナウンサー・話し方コンサルタント)



DEデート)、東京FM、STVラジオに出演。紙媒体では、北海道新聞、女性セブンでインタビュー記事が紹介されました。

また、出版記念講演会を、精神科医・ベストセラー作家の樺沢紫苑先生とのコラボで、東京とふるさと札幌の2か所で開催することができました。

たくさんの方々のおかげで、応援に、いまなお言葉では言い尽くせないほどの感動と感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年4月、初めての書籍を総合法令出版から上梓しました。メディアでも取り上げられて、放送では文化放送(志の輔ラジオ落語

大好きな軽井沢から、『軽井沢経済新聞』を発信中。

▼仲里奈（97年文学部卒／軽井沢経済新聞編集長）



一昨年（21年）12月24日に、編

集長として立ち上げた「軽井沢経済新聞」——幼い頃から夏を過ごしてきた大好きな軽井沢に一昨年、から拠点を持ち、何か軽井沢に関わる仕事をしたかったことがきっかけです。

PR会社時代に存在を知り、いつか携わりたいと考えていた、全国ネットで展開している地域のビジネス&カルチャーニュースを配信する全国・海外各地の情報サイトの軽井沢版としてスタートすることになりました。

軽井沢と東京を行ったり来たり、の忙しい生活ですが、大好きな取材に奔走することができ、充実しています。



▲軽井沢経済新聞へのアクセス

老若男女を魅了するキャラクタービジネスの魅力。

▼高橋 充（05年文学部卒／小学館集英社プロダクション名探偵コナン事業部）



際の窓口業務全般ですが、名探偵コナンはアニメを見る子どもたちだけでなく、20代〜30代を中心とした女性ファン層にもたいへん人気となっています。

新卒から広告業界10年、キャラクター業界に転職して8年。これまでポケモン、ドラえもん担当を経験し、今は名探偵コナンのライセンスを担当しています。

キャラクターを使用して、商品化や広告販促キャンペーンをする

大人も、子どももソフトコンテンツの力で笑顔になれる！そして商品化や広告販促を通じて企業側にもメリットを見いだせる、そんな関係づくりができる夢のあるビジネスです！

日本が誇るキャラクターパワーで、前へ！突き進んでいきたいです。

「下町街歩きと街の誇りを国内外に伝える。」

▼和田哲郎（77年政経学部卒／東京下町案内人）



「赤坂の通りだって、渋谷や池袋と比べて、なんの変わりもない」と生まれも育ちも赤坂のその人は

縁の下の力持ちとして、体育会ゴルフ部女子部を率いる。

▼長尾睦子（85年文学部卒／致知出版社管理部）



私が体育会ゴルフ部女子部の監督を引き受けたのは2013年、ゴルフが上手では

ない私が受けていいのだろうか？と自問自答し、家族からも猛反対を受けての就任でした。「技術指導はコーチがいる。女子のマナー、ジメントをしてくれればいい」と言われても何をすればいいのかかわからず、五里霧中のスタートでした。

当時の女子部は、関東学生ゴルフ連盟の大会でやっとAブロック

言った。確かに通りの外見はどの街も似たようなものだ。

ただそれぞれの街は数百年の歴史があり、掘ればその時代時代のエピソードや文化が眠っている。それを掘り起こそうというのが、私が東京下町で観光活性化を手掛けるきっかけになった。

表通りから一歩路地に入ると、今

も残る黒塀の元料亭や昔ながらの和菓子屋や骨董屋など、赤坂らしい風情が残っているじゃないですか、と。

どの街も歴史や文化が埋まっている、それを仕事にしよう、と決めて今に至っている。ありがたいのは、その目的を達成するための手法に困ることがないのは、広告会社時代の経験や人脈が生きているから。古希を迎えても新しい経験を、充実した毎日を迎えられるのは本当にありがたい。

では学生に指導できない私だからこそ監督である意義がある——何をすれば彼女たちの心の支えになれるかと知恵を絞り、「私ができたのだから、後任も安心して監督を務められるはず」と思うようになったのです。

全国大会へ出場できる優秀な学生たちが道を踏み外すことなく、文武両道に励めるよう、今後も縁の下での力持ちとして精進していきます。皆様、感謝です。



MMCマスコミ講座

本年度も内定者続出！

明治大学学生のマスコミ業界への就職サポートを続けるMMCマスコミ講座は、大学からも高い評価を受けている活動の一つ。今年度の就職戦線でも講師と学生の努力が実り、大きな成果を挙げている。

3年にわたるコロナ禍でMMCの活動が停滞を余儀なくされる中、現役学生に対する就活支援を行っているマスコミ講座はリモートを駆使しながら続けられ、2022年の就職活動でも過去最高の輝かしい実績を挙げている。

22年度のマスコミ講座は、前期・後期合わせて2回の審査を経て23人が合格・入室し、6月9日からスタートした。

就活生を支えてきた講師陣は次の通り（敬称略）。▼大林龍彦（78年政経学部卒／共同テレビジョン）、▼古梶剛士（95年文学部卒／汐留健診クリニック）、▼

太田智一（00年法学部卒／PHP研究所）、▼田上拓明（14年経営学部卒／読売新聞）、▼志賀瑛七（18年文学部卒／日本経済社）。

マスコミ講座のメイン担当の大林理事は次のように語る。

Q. 何をどのように進化したか。

A. 大林と古梶は毎週、ほかの講師は4週に1回、予定を組んで参加し

た。「作文・エントリーシート作成・面接・グループディスカッション・企画の立て方・業界研究など多岐にわたり指導。作文は毎週宿題か実戦形式で書き、添削・講評した。

Q. コロナ禍での就活支援の苦労話など。

A. コロナ禍での就活は、リモートでの面接が鍵を握っていると言っても過言ではない。そこで個別のリモート指導を重視し、毎週の講座とは別に時間を作って、徹底的に学生ごとの弱点を補強した。この結果、次の内定を獲得している（22年12月現在）。

読売新聞社、集英社、NHK×3（うちアナウンサー×1）テレビ朝日×2、朝日放送、CBC、東海テレビ、BS-テレ東、ADK、読売エージェンシー、博報堂アイスタジオ。

そのほか東京海上日動、凸版印刷、東京ドーム、明治大学など、マスコミ講座に最後まで残った18名全員も、それぞれ大手企業などに内定した。

▼おめでとう！ 栄冠を勝ち得た受講生の声▲

▼日本放送協会（アナウンサー）内定



西尾 文花さん
(文学部)

テレビ業界を志したのは高校時代でした。放送部での活動を通して表現することの面白さを実感し、仕事にしたいと漠然と思っていました。

就職活動を意識する大学3年生、業界への理解やマスコミ就活の方法をほとんど知らない状態からMMCの講義を受けました。

大学では体育会に所属し、日本拳法を行っています。はじめのうちにはうまく自己PRに落とし込むことができませんでした……。しかし、作文講座や面接練習を通して少しずつ自分の強みを理解できるようになり、自信を持って本番に挑むことができました。

1年間ご指導いただきありがとうございました。まだまだ技術も知識も足りませんが、夢であったテレビ業界での仕事に、責任ややりがいを持ちながら働いていきたいと思っています。

▼テレビ朝日内定



神丸 大介さん
(商学部)

「神丸はここ直そうか、それじゃダメだ」——的確かつ本音で指導をしていただいた7カ月。時に挫折そうになることもありましたが、家族以外の方が自分のためを思って厳しいことを言うてくださることは本当に有り難く、私にとってとても貴重で大切な時間でした。

木曜19時から始まる講座。本気で学生に向き合っていて、夢への挑戦を伴走してくださった講師の方々には感謝してもしきれません。プライベートの旅行先から私の最終面接対策をしてくださった大林さん、ありがとうございました。

「どうして?」「何がしたいの?」「なんで?」繰り返し問いかけてくる「言葉の壁打ち」を通して、面接に挑む不安がスッと解消されていきました。同期と同じ方向に向かって頑張れたことも刺激になりました。熱望していたテレビの世界に全力で飛び込んで参ります。

▼ADK内定



石井 雪乃さん
(情報コミュニケーション学部)

退出するまで絶対に泣かない、と決めていた私は、笑顔（のつもり）でお礼を言っておズームを切ったあと、涙が止まりませんでした。第一志望の一次面接を翌週に控えたある日、模擬面接の際に言われた「人間味を感じられない」の一言が、とてつもなく悔しかったのでした。人と話すのが好きな私にとって、面接は「自分の良い側面をアピールする場」であり、苦しいものではありませんでした。でも、「本性が見えないから採用する気にならない」という厳しい言葉の斧が私に刺さりました。

第一志望の企業から内定を頂けたのは、間違いなくこのとき悔しい思いをし、その理由に納得して乗り越えたからだと思います。

4月から念願叶ってADKで働きますが、自分をよく見せようとするのではなく、等身大の自分を魅力的に感じてもらえるよう「肝に銘じ精進してまいります」。